

滋賀県の地震

令和7年(2025年)1月

目次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	6
(2)概況	-----	6

3 地震一口メモ

1月13日に発生した日向灘の地震について	-----	7
----------------------	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

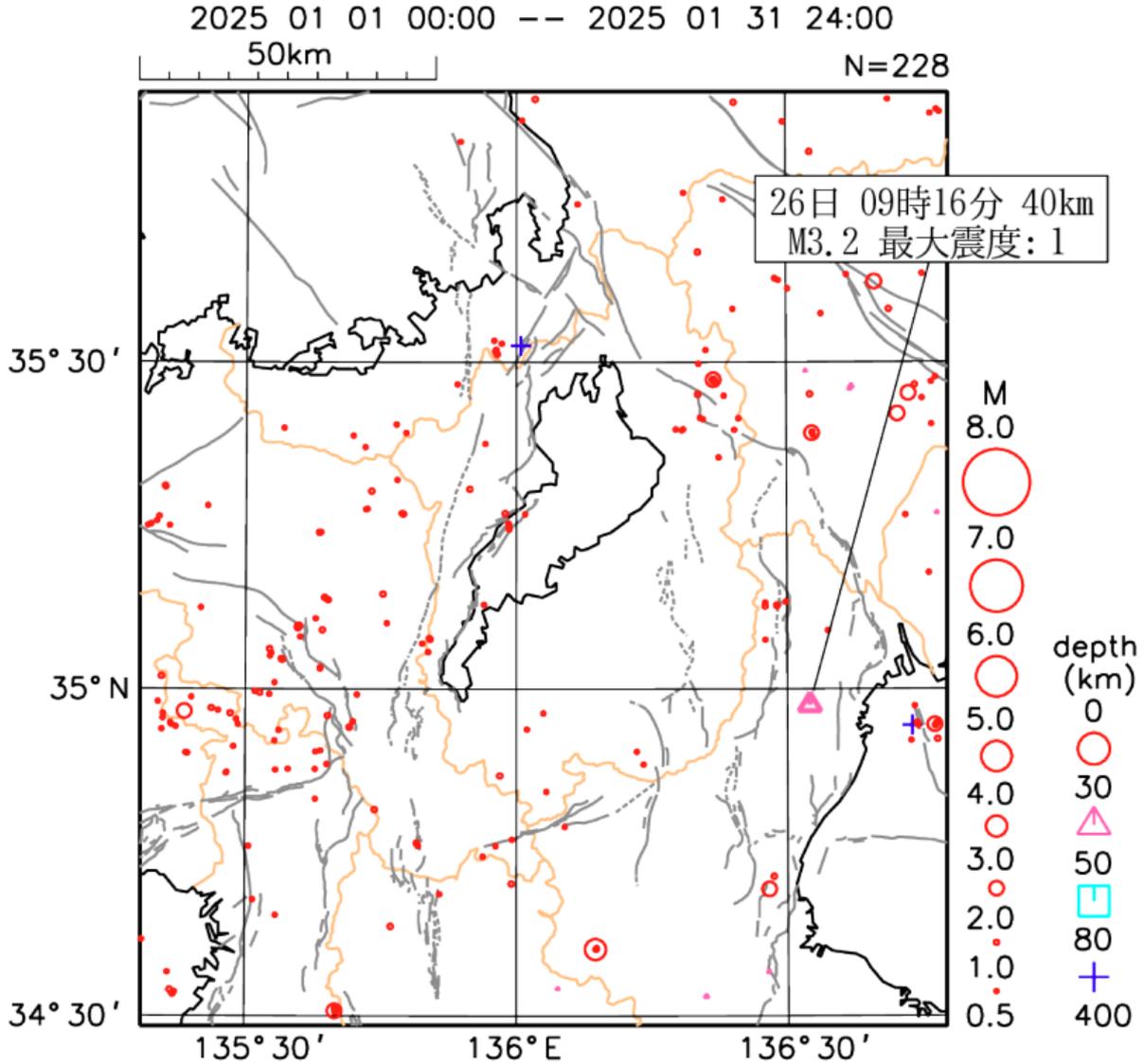
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和7年1月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。
 シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模(マグニチュード)」、形状により「震源の深さ(km)」を表現しています。マグニチュード(M)とシンボルマークの大小、震源の深さ(depth)とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。
 図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。
 滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています(最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。
 震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

1月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は13回(前月10回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした(前月0回)。
 滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。
 13日21時19分 日向灘(図の範囲外)の地震(M6.6): 近江八幡市で震度1
 26日09時16分 三重県北部の地震(M3.2): 甲賀市、東近江市、日野町で震度1

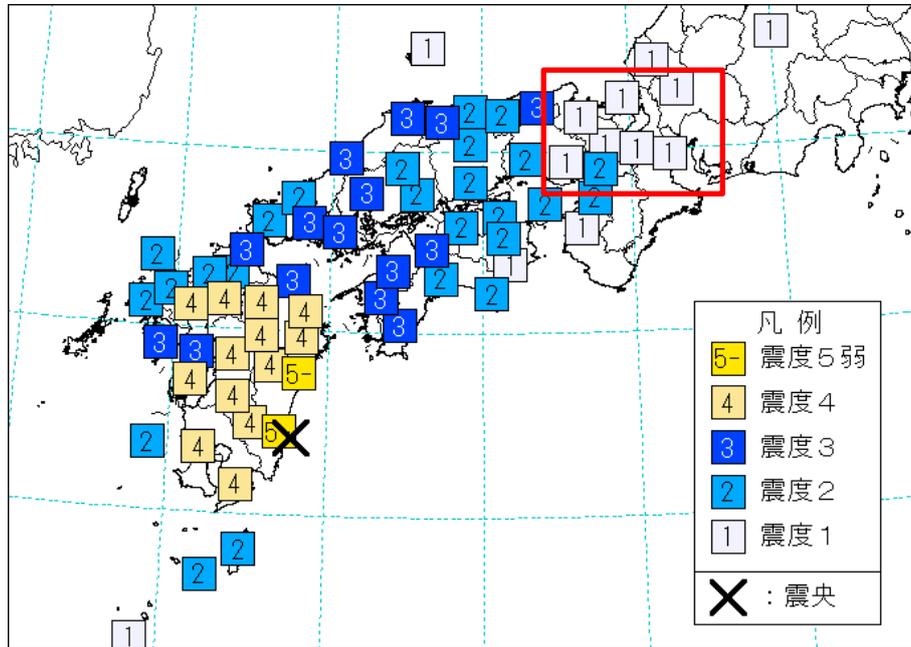
(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2025年01月13日21時19分	日向灘	31° 49.7' N	131° 34.2' E	36km	M6.6
----- 地点震度 -----					
滋賀県	震度 1 : 近江八幡市桜宮町				
2025年01月26日09時16分	三重県北部	34° 58.5' N	136° 32.5' E	40km	M3.2
----- 地点震度 -----					
滋賀県	震度 1 : 滋賀日野町河原*, 甲賀市水口町 , 甲賀市土山町*, 東近江市上二俣町*, 東近江市市子川原町*				

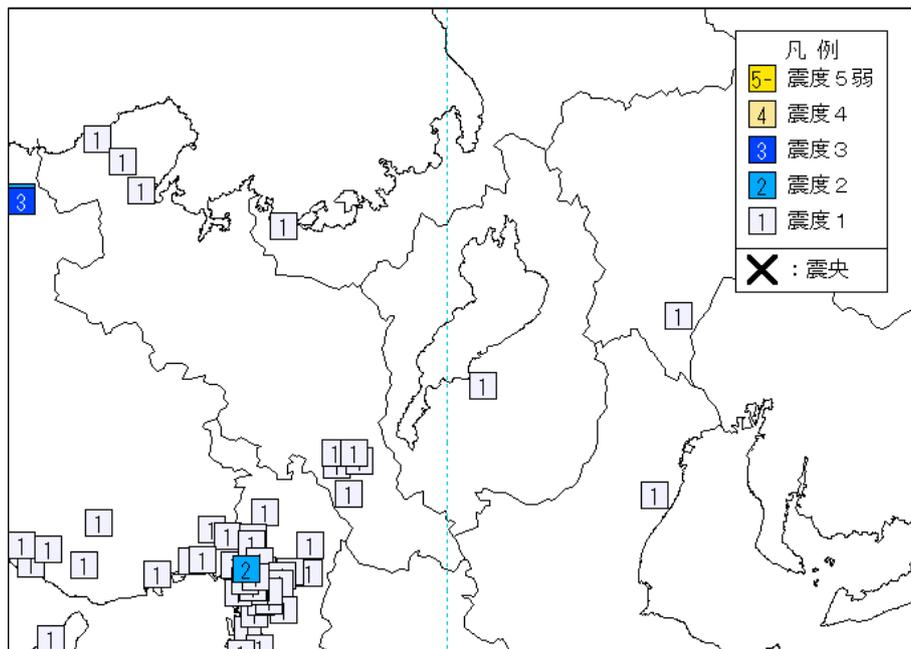
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

2025年1月13日 21時19分 日向灘 (M6.6)

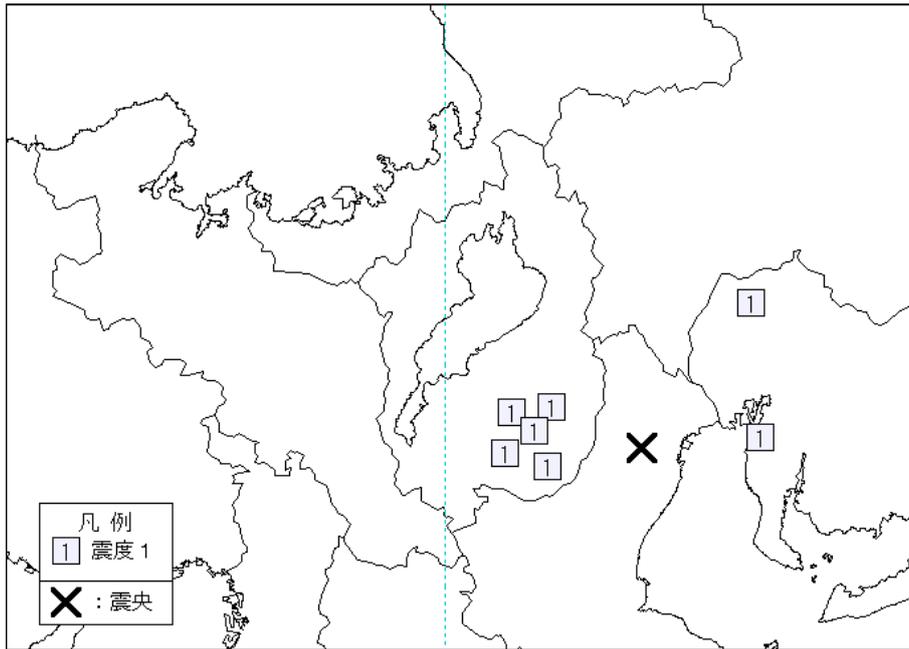


各地域の震度



各観測点の震度 (各地域の震度の赤矩形領域内)

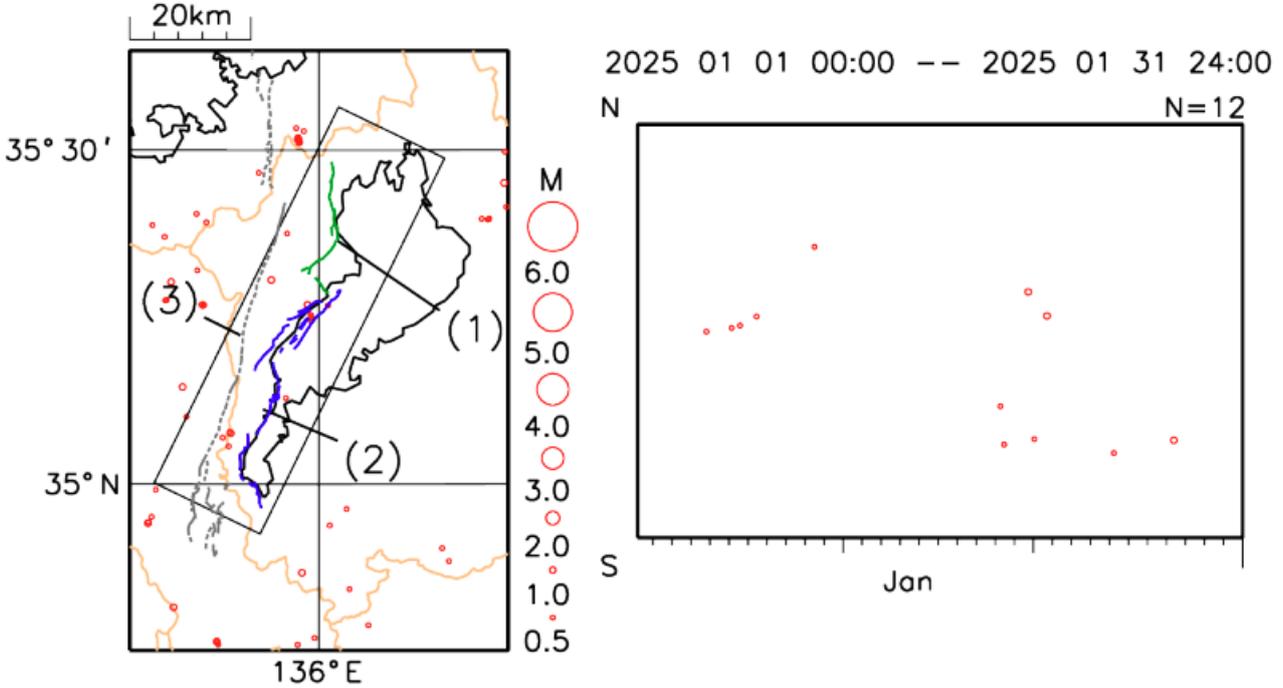
2025年1月26日09時16分 三重県北部 (M3.2)



各観測点の震度

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和7年1月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ30kmまでの地震)



(上) 震央分布図

深さ30km以下の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約59kmで、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部ではM7.1程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率は1~3%と推定されます。

断層帯南部ではM7.5程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ0%と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は2025年1月1日。)

(2) 概況

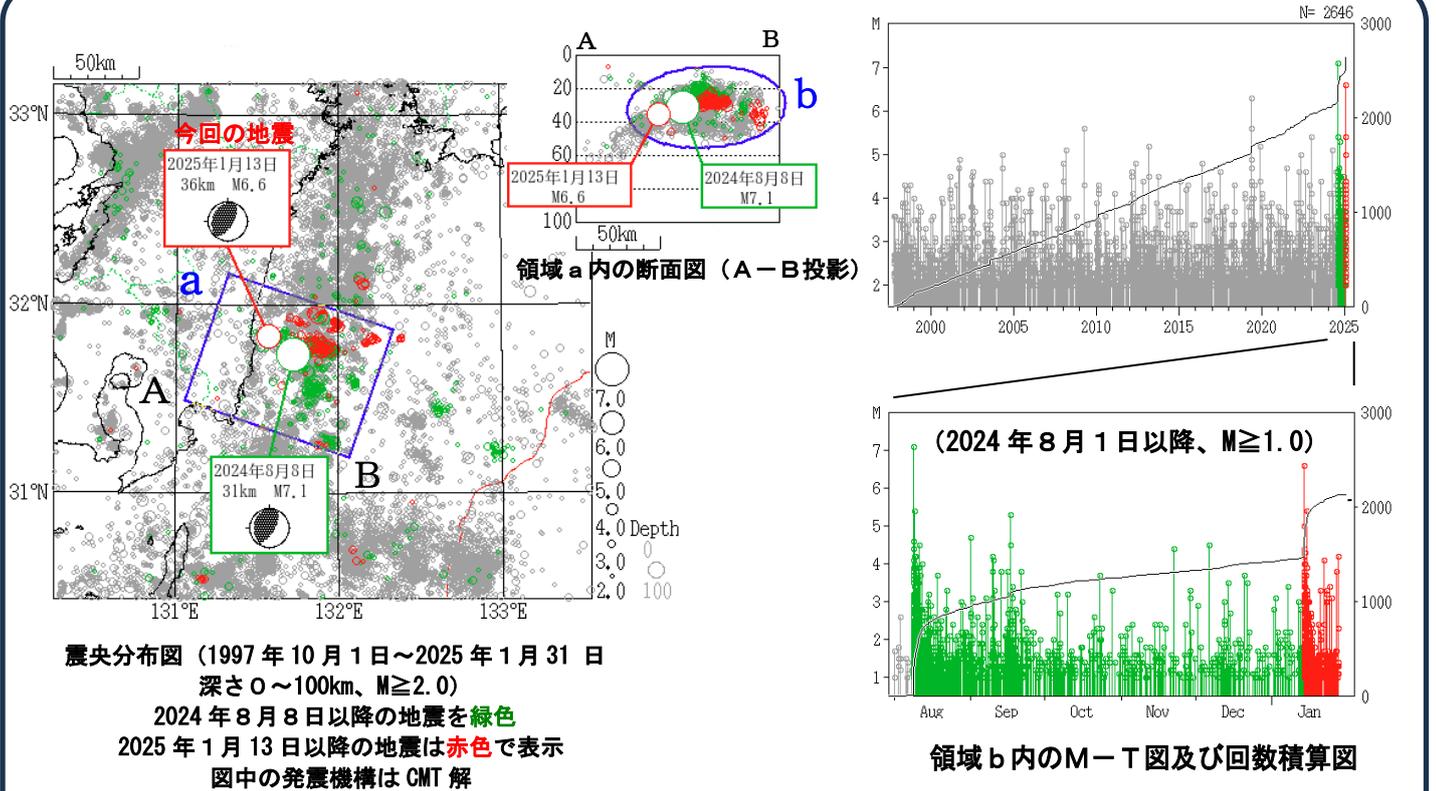
1月に震央分布図中の矩形領域内で観測されたM2.0以上の地震は0回(前月1回)で、同領域内の地震で震度1以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

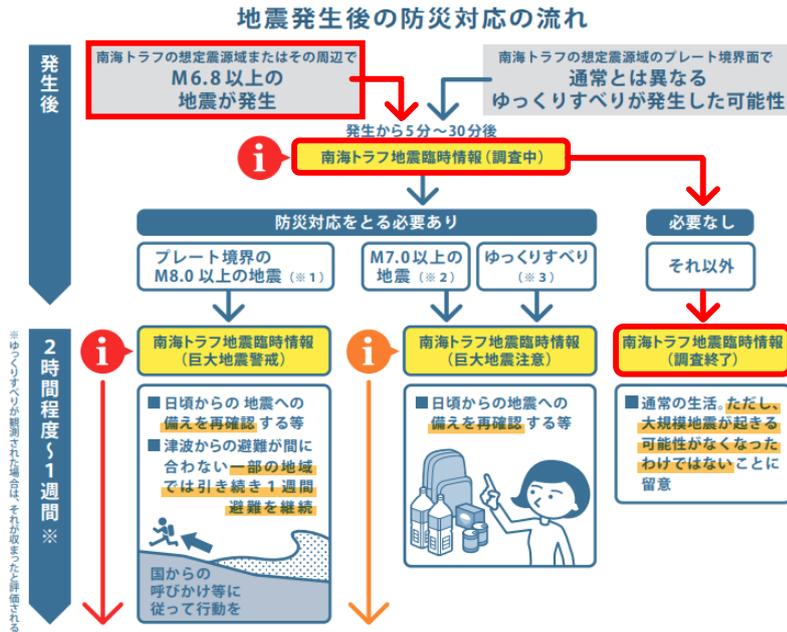
1月13日に発生した日向灘の地震について

昨年8月8日に日向灘で発生したM7.1の地震により、気象庁は南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を運用開始後初めて発表し、政府から巨大地震注意の呼びかけが行われました。その後この地震の震源周辺では活動が継続しており、この一連の活動の中で今年1月13日21時19分にM6.6の地震が発生し、宮崎県宮崎市、高鍋町、新富町で震度5弱を観測したほか、宮崎港（国土交通省港湾局）で23cm（暫定値）の津波も観測しました。今回の地震は前回と同じくフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震で、当初地震の規模をM6.4と推定していましたが、その後M6.9に更新しました。これにより大規模地震発生との関連性について調査を開始する基準を超えたため、同日21時55分に南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表しました。その後、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会および地震防災対策強化地域判定会で南海トラフ地震との関連性について検討した結果、大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではないと評価されたことから、同日23時45分に南海トラフ地震臨時情報（調査終了）を発表しました。

昨年8月以降の日向灘の地震活動について



今回の一連の地震活動を震央分布図、断面図、M-T図及び回数積算図で見ると、昨年8月の日向灘の地震発生以降、震源周辺では活動が活発となり、今年1月の地震もその活発となった領域で発生しています。また、地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、断面図における位置関係からフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられます。



**リーフレット「南海トラフ地震 -その時の備え-」の
地震発生後の防災対応の流れの図に今回の地震の流れを赤枠強調**

なお、地震調査研究推進本部が長期評価による地震発生確率値の基準日を2025年1月1日に更新しており、これにより南海トラフの今後30年以内の地震発生確率が「70～80%」から「80%程度」と表記が変わりました。これは基準日が更新されたことによるもので、一連の日向灘の地震活動で確率が上昇したわけではありません。前回の南海トラフ地震から約80年が経過し、次の南海トラフ地震発生 of 切迫性は平常時から高い状態ですので、日頃からの地震への備えを確認してください。

気象庁報道発表 南海トラフ地震臨時情報(調査終了)について

https://www.jma.go.jp/jma/press/2501/14a/NT_2501140015sv.pdf

気象庁HP 南海トラフ地震とは

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/index.html>

気象庁HP リーフレット「南海トラフ地震 -その時の備え-」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html>

地震調査研究推進本部HP 長期評価による地震発生確率値の更新について

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_25jan_kakuritsu_index/